「対立と合意」を認識し，公民的分野と接続する
中学校社会科歴史的分野の授業開発
-「幕末」の教材及び授業開発-

教育実践高度化専攻　教科指導重点コース　言語・社会科学系（社会）
近藤佑思

学習指導要領の改訂に伴い、中学校社会科公民的分野はすべての単元において、理論や概念を用いた学習が求められる。しかしながら、理論や概念は生徒・教員ともに掴みにくいこと、受験に迫られていることから、公民的分野の学習は深い学習に繋がりにくいと考える。そこで本研究の目的は、理論や概念の中で根本的なものである「対立と合意」をテーマとした授業を歴史的分野で実践し公民的分野と接続することの有効性を考察することある。日米和親条約の交渉過程を扱う実践Ⅰと第５章（近代の成立に関する部分）で発生した対立を振り返り、今後の学習に見通しをもつ実践Ⅱを行った。実践Ⅰ・Ⅱを通して、多様な「対立と合意」のとらえが生じ、公民的分野で「対立と合意」を学ぶ土台作りに繋がった。また歴史的分野の学びを深め、今後の学びに繋がる問いや疑問、気付きを生んだ。以上のことから歴史的分野で「対立と合意」に着目した授業を行うことの有効性を示すことができた。